

「知事とのフレッシュトーク」(平成24年10月11日実施)の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成24年10月11日(木)にむつ市の県立むつ工業高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

むつ工業高等学校の概要

昭和39年に下北半島の産業経済の振興と発展とともに、地元出身の技術者の育成を目的として、機械科と電気科の2学科により創立。昭和46年に設備工業科(現在は設備・エネルギー科)、平成3年には電子機械科と電子科が開設し、現在の5学科5学級となった。「自立」を校訓とし、「新しい時代を主体的に切り拓く若人」の育成を教育目標としている。専門知識・能力の向上を目指し、徹底した資格取得の指導が行われており、県内外の製造業をはじめとする企業への就職率が高い。部活動も盛んであり、自動車部及び機械科、電子機械科による電気自動車の製作をはじめ、新田名部川を練習場に行っているボート部は、今年度のインターハイで男子シングルスカルが優勝、国体で少年男子ダブルスカルが3位入賞を果たしている。平成25年度に創立50周年を迎える。

機械科100名、電子機械科97名、電気科97名、電子科99名、設備・エネルギー科93名の486名が学んでいる。(平成24年5月1日現在)

◆電気自動車の見学◆

会場到着後、知事は生徒が製作した電気自動車を見学しました。



◆開催◆

校長歓迎のことば

本日、知事にはお忙しいところむつ工業高校までお出でくださり、本当にありがとうございます。このようにフレッシュトークを本校で開催し、知事と直接意見交換ができることを、大変嬉しく思っております。日頃、生徒も我々教員も知事にお会いできることはめったにありませんので、今日は大変貴重な時間となります。生徒の皆さんは、この今、この時間を大切にしてください。そして知事と一緒に楽しく有意義な時間を過ごしてほしいと思います。

知事あいさつ

皆さんこんにちは。今日は到着して最初に電気自動車を見せてもらいました。皆さんが作った電気自動車は素晴らしいと思います。今日はこうしてむつ工業高校の生徒諸君と話をすることによって、君たちが青森県、日本、さらには世界の中において、どんなことを考えているのか、どんな未来を作っていきたいのか、そのような意見交換ができたらすごく嬉しいです。そして今会場に入ってみて、皆さんの姿勢の良さに驚きました。今日はリラックスした気持ちで忌憚のない意見交換を一緒にできればと思っています。さっき皆さんの就職状況を校長先生から教えてもらいましたが、ここむつ工業高校からは、全国で本当に活躍する人たちを出してくれています。皆さんが本当に輝いているむつ下北の未来に向けて歩んでくれていることをすばらしいと感じました。そして、文武両道ということで、スポーツでもしっかり活躍してくれていますし、ここを卒業することによって、皆さんの未来もまた飛躍していくと思います。今日はお互いにしっかりと意見交換をしたいと思います。よろしくお願いします。

◆生徒による学校紹介◆

発表者3名（3年 男子）

さて、今日も始まりました「学べるニュース寺子屋」。今回もむつ工業高等学校の行事についてフレッシュにお伝えします。どうぞお楽しみに。

4月は入学式から始まります。また、2、3年生の先輩方、新入生が初めて交流する対面式が行われました。4月末には生徒総会があります。生徒総会、生徒会の活動方針が発表されたり、各部各委員会に分配される予算の決定、愛好会活動の承認等が議題となります。5月には交通事故防止大会がありました。

それでは次の行事に移ります。6月には青森県高等学校総合体育大会があります。インターハイ出場を目指し、むつ工の運動部が頑張ります。今年度はボート部がシングルスカルで1位、ダブルスカルで1位、舵手付クォドルプルで2位というすばらしい成績を残し

ました。むつ工といえばボート部と言われるように、伝統のある部活動です。その他にむつ工にはソフトテニス部、陸上部、バスケットボール部、バレーボール部、サッカー部、バドミントン部、卓球部、柔道部、剣道部、ラグビーフットボール部、硬式野球部、軟式野球部があります。このように、勉強だけではなくスポーツにも力を入れています。



また、6月には遠足があります。1年生は徒歩遠足で釜臥山の入口までの往復を歩きました。2年生はバス遠足で浅虫水族館の見学に行きました。3年生は炊事遠足で学校から歩いて矢立キャンプ場まで行き、バーベキューをしました。どの遠足も思い出に残る行事にすることができました。

次の行事です。高校球児と言えば甲子園ですね。7月には全国大会である甲子園への出場権をかけて、青森県の予選大会があります。むつ工でも甲子園を目指して日々練習を頑張っています。それでは次の行事です。

また、7月には本校最大の生徒会行事の一つである体育祭が行われます。学科対抗で行われ、今年度は電子機械科が総合優勝しました。多くの生徒が参加する学科対抗のリレーや綱引きは盛り上がります。むつ工の体育祭では自分たちの陣地に16枚のベニヤ板を使ったバック絵を飾ります。地域の高齢者の方々を招待したり、保護者の皆さんが応援に来るなど、とても盛り上がる体育祭です。

それでは次の行事に移ります。本校では9月に2年生を対象とした就業体験を実施しています。学校で学んでいる技術や技能を活かし、実際の現場で体験するものです。就業中にはその他にも挨拶やマナー、人間関係の大切さを学び、どのような職業が自分に適しているのかを判断する大事な体験になっています。

10月には2年生が修学旅行に行きました。去年は京都、奈良、大阪のコースで各地の歴史ある建造物や工業に関わる施設を見学しました。中でもユニバーサルスタジオジャパンでは皆が普段以上に楽しんでいました。修学旅行は最も思い出に残る行事とすることができました。

10月末には高校総合文化祭があります。文化部が主役の大会です。本校からはJRC部、吹奏楽愛好会、囲碁・将棋愛好会、文芸愛好会等が参加しています。その他にも本校にはロボットコンテストの全国大会に出場している工業部のロボット部門と自動車部門、IT愛好会、CG・イラスト愛好会があります。

また、10月にはむつ工祭があります。学科毎に特色のある工業高校ならではの展示や、一般の方々も、ものづくりの体験ができるよう工夫されています。その他の展示については授業中に製作した作品や各部の活動アピールの場として、多くの方々に見ていただい

います。3年生は毎年模擬店を担当し、工夫ある食品が販売されています。昨年度のステージ発表では、吹奏楽愛好会のバンド演奏がありました。それぞれが盛り上がりのあるものになりました。今年度は更に盛り上がりのある内容にする予定です。今年のむつ工祭は10月27日、28日に開催されます。三村知事もぜひ見に来てください。お待ちしております。

工業高校ならではの行事と言えるのは、1月に行われる生徒研究発表会です。各学科で行われているものづくりや研究成果を発表する場です。昨年は機械科が3級技能試験の取組とものづくりについて、電子機械科は電気自動車の製作、電気科は照明工事、ストラックアウトの製作、電子科はLEDイルミネーション付噴水型ジュース装置の製作、設備システム科では木材加工と電気の融合であるSBOランプの製作についてそれぞれ発表がありました。各学科の研究発表の他に、工業部のロボット部門をはじめとする生徒が製作したロボットの実演を行います。ロボット部門が作ったロボットは、先日本校で開かれたロボットコンテストで1年生チームが1位、3年生チームが2位という結果を残し、見事県大会を通過しました。次のステージである全国大会で我がむつ工の名前を大いに知らしめてほしいと思います。よい結果を期待しています。

最後の行事に移ります。3年間の締めくくりが3月に行われる卒業式です。就職、進学でほとんどの生徒がバラバラになり巣立っていきます。多くの学校行事を経験し、多くの知識、技能を身につけ、校訓である「自立」した人間として厳しい社会へ出ていくのです。今年3月に卒業した先輩方は進学、就職決定率が100%でした。私たちむつ工生はこのような行事を通して、多くのことを学んでいます。中学校や普通高校と違い、実習やものづくりなど、様々な体験をしながら勉強するのが、我がむつ工業高校です。

知事

すばらしいニュース番組を見させていただき、楽しかったです。本当に皆さんが生き生きとしていて、すごくいいね。こんな元気な高校生は県内でも1、2を争うすばらしさです。

◆学科紹介◆

発言者1（機械科3年 男子）

機械科は昭和39年の創立当時から地域に愛されている伝統ある学科です。工作機械などを形成しているのは、鉄板や各種の部品です。これらの部品などを生産するには、機械の知識や技術が必要なので、機械設計、機械工作、機械製図などを学んでいます。また実習では実際に製品を作ります。旋盤せんばん（※）ではバイトを使用して材料を削り、製品を作ります。（※旋盤：円柱状の材料を回し、それにバイトと呼ばれる刃を当てて材料を作る工作

機械。) 溶接では2枚の板をガス溶接や電気溶接で接合します。昨年ものづくりコンテスト旋盤の部で機械科の生徒が優勝し、東北大会に出場することができました。また危険物取扱者3級技能検定、機械生産の資格取得にも積極的に取り組んでいます。昨年機械科の2年生の生徒が第二種放射線取扱主任者の資格を取得しました。この資格を取得したのは、青森県の高校生では初めてということで新聞にも掲載されました。今むつ工の機械科は県内一勢いのある学科です。

知事

県内一の機械科の力を、後輩たちに繋げてください。

発言者2（電子機械科3年 男子）

電子機械科では機械技術、電子技術及び情報技術が結びついたメカトロニクスという技術で設計・製造され運用される機械や、電子機械について学んでいます。主な学習内容は、電子回路の作成、工作機械の取扱、ロボット制御などで、メカトロニクスはカメラ、自動車、工作機械等のほとんどの分野で採り入れられており、特に自動車は、昨年度電子機械科とむつ市が共同で電気自動車の製作に取り組み、大きな成果を挙げました。技能者の資格にも多数挑戦していて、機械産業や車産業の企業から期待を寄せられている、本校の誇れる学科です。

知事

昨年の3年生が電気自動車を作ったチームなんだね。今度は君たちの代で電気トラクターとかを作ってほしいです。

発言者3（電気科3年 男子）

電気科では発電所で電気が作られ、一般住宅や工場で使われるまでの全ての流れを3年間を通して勉強します。その中で一般住宅の配線工事をするのに必要な資格である、第二種電気工事士の資格取得に力を注いでいます。また3年前から1年生全員受験に切り換え、卒業までの全員取得を目指しています。3年生は今年最後の1人が電気工事士に合格し、全員取得することができました。また、更に上の資格である第一種電気工事士や第三種電気主任技術者等の資格に挑戦することにより、個人のレベルアップを目指しています。電気は今の世では必要不可欠なものであり、電気を勉強することにより様々な資格に活かすことができます。電気分野は県内だけでなく、県外からも多数の求人がきています。それだけ必要性が高く、私たちもやりがいのあるものだと思います。

知事

合格した全員に拍手。全員合格して良かった。

発言者 4（電子科 3 年 女子）

電子科では家電製品から医療機器まで、電子制御されている製品について、電子制御に必要なデジタル技術やアナログ技術の基礎・基本を学んでいます。他にパソコン利用技術検定や工事担任者（DD 3 種）など、資格取得にも力を入れています。また昨年のものでつくりコンテストでは優勝する者もいるなど、未来を担う技術者となるため、日々努力を積み重ねている学科だと思っています。

知事

難しい学科だもんね。拍手。

発言者 5（設備システム科 3 年 男子）

設備システム科は、昨年度から設備エネルギー科となり、設備コースとエネルギーコースに分かれて学習しています。設備コースでは冷暖房、給排水といった様々な生活に必要なライフラインなどについて学びます。エネルギーコースでは今までの学習に加えて、原子力、太陽光、風力、地熱などの新エネルギーについて学びつつ、将来エネルギー産業や研究開発に従事することを目的として、理数系科目を多く勉強します。そしてエネルギーの専門をより深く学ぶため、大学への進学を目指すことができます。その他にも資格取得では、配管技能士や電気工事士といったいろいろな分野の資格を取ることができ、とてもやりがいがある学科です。

知事

各学科の内容を教えてくれてありがとう。学科の名前は似ていますが、各々どんなことを学んでいるのか、よく知ることができました。ありがとうございました。

◆生徒と知事との意見交換◆

発言者 1（機械科 3 年 男子）

私は原燃関係への就職を目指しています。将来、環境に配慮しつつ、他県や海外に対してエネルギーに関する技術を提供できる技術者に私はなりたいと思っています。現在、青森県では攻めの農林水産業を進めていらっしゃいますが、攻めのエネルギー産業として青森県ならではのエネルギー政策について、どのようにお考えでしょうか。

知事

いい質問です。我々が日本で生きていく上で、もちろん世界のそれぞれの国々もそうだと思いますが、食べ物、水、エネルギーがないと生きていけないですね。エネルギーは

非常に重要だと思っています。そのエネルギー分野について、技術者を目指そうという気持ちでいてくれることをありがたく思います。

エネルギーをどう確保していくかということについては、様々な活動が地球上で賑やかになり、家電製品にしても交通機関を動かすにしても、食べ物がないと困るのと同じで、我々の日常生活でエネルギーがなかったら、電気が止まったりストーブが止まったり、車が止まったりということになり、大変なことになると思っています。青森県としても、攻めの農林水産業を進める一方で、平成18年に青森県エネルギー産業振興戦略を作りました。青森県が持っているエネルギー、例えば地熱はどのくらいあるだろうか、山で切っている木のうちどのくらいをバイオマスとして使えるだろうか、発電に向くいい風をどのくらい持っているだろうか、冬の県南地方は寒いけれど太陽の出る日は多いといった具合に、どのようなエネルギー資源が青森県にどれだけあるかということ、かなり早い段階で、私が知事に就任した後の平成16年頃からエネルギーの青森ということを打ち出していこうと調べてきました。現在はこの戦略の具体化に入っています。

例えば、風力発電の設備容量は青森県が日本一ですが、風力発電は電圧と周波数が安定しません。太陽光発電もそうです。それでは電気を蓄えることのできる大きな燃料電池を作ろうということで、名古屋の企業と蓄電池付きの風力発電システムを、世界で初めて作りました。ただ、最初は体育館くらいのかかなり大きな蓄電池になってしまい、それを物置くらいの大きさに小型化して、やっとフランスなどに輸出できるようになりました。このように、世界で初めて風力発電に蓄電池を付けたのは青森県です。

それから、最近ではスマートグリッド（※）という言葉が使われていますが、八戸で太陽光、風力、下水バイオマスによる世界で初めての分散型電源という仕組みをスタートさせたのも、実は青森県です。（※スマートグリッド：再生可能エネルギーなどの新しい電力網とIT技術を組み合わせた最適な電力供給システム。）でもその時、エレベーターが動くとき電圧が上がってしまい、セーフティーが働いて停電してしまうといった課題があることが分かりました。八戸での実証実験でスマートグリッドの難しさが分かり、それを支えるためには燃料電池という仕組みをしっかりと整えないと、再生可能エネルギーは基本的に全く役に立たないというところまで研究開発が進んでいます。

また、エネオスでは、八戸を東日本最大級のLNG（※）基地にしようと、現在建設が進められています。（※LNG：Liquefied Natural Gas、液化天然ガス。気体である天然ガスを約マイナス162度まで冷却すると、液化天然ガスになる。）そして、そのLNGガスで燃料電池を作る研究開発が始まっています。皆さんは電気自動車を作ってくれましたが、電気自動車の分野においては、早い段階から日本の自動車メーカーと連携して、日常生活でどのように活用するか、電気を供給するスタンドをどのように配置するかといった研究も含めて、青森県では日本で最先端の再生可能エネルギーの研究と実証に取り組んでいます。

太陽光発電も世界的に注目されてきて我々も取組を進めてきていますが、太陽光発電は

それぞれの家庭で使っている分には良くても、電圧と周波数の問題が出てくるため、系統電源（※）に入れられないのが現状です。（※系統電源：電力会社が持つ電力網のこと。風力発電や太陽光発電はほとんどの場合系統電源から供給される電力との連携により成り立っている。）そこで、六ヶ所の各家庭に頼んで、それぞれの太陽光パネルを一つの製造システムとしてお互いに融通する仕組みを作り、世界で初めてとなる実証試験をしています。

日本が再生可能エネルギーを進めていくことになった場合、実は一番進んでいる青森県のデータや結果というものが、重要になってくる訳です。石油資源の豊富なアラブのアブダビ政府も、将来再生可能エネルギーの街づくりを進めたいということで、青森県と一緒に組もうと言ってきています。また、イギリス、フランス、ドイツの政府も、一緒にいろいろなことをしようと青森県に言ってきています。このように、エネルギーの分野は、うまくいく仕組みを作ることにより、実は産業としてもものすごく成長する可能性を秘めているため、この分野での実証実験の取組を進めているところです。

そして、電気自動車については、八戸と上北の県民局が連携して、仕組みをもっと簡単にすることで、青森の小さい町工場が、電気軽自動車や電気軽トラ、電気トラクター、電気耕運機を作ることができないかといった取組を進めています。

間違いなく食べものがなくなったら困ります。エネルギーもなくなったら困ります。そうであれば、そのエネルギーの分野で他でやっていないことを青森でどんどん進めることができれば、先々の産業の種となっていくということで、現在どんどん取組を進めています。

また、東北電力も、現在八戸でメガソーラーと呼ばれる大規模な太陽光発電所を運転してくれていて、青森県は再生可能エネルギーの最先端を走っています。自分たちで取り組むことができる再生可能エネルギー分野、太陽光、風力、バイオマス、地熱、潮流、燃料電池、これらの新しい仕組みも含めて世界の最先端を目指そうと思っています。

発言者 1

興味がありますので、これから経験を積んで、知識を増やして頑張っていきたいと思います。

知事

一つのエネルギーだけでは絶対に保たないから、原子力も再生可能エネルギーも火力も、うまく組み合わせていくのが大事だと思っています。若い技術者として頑張ってください。そして、将来は世界に名だたる技術者になってください。期待しています。

発言者 2（電子機械科 3 年 男子）

私の質問は、青森県について若者がすべきことについてです。むつ工業高校では県内企業の求人状況が厳しい状態です。それは他の工業高校でも大差はないそうです。生まれ育

った地元就職し、貢献したいと思っている人たちにとって、それは残念なことだと思います。青森県には私たちのような若者が必要だと思います。より活気のあるすばらしい青森県にするために、私たちに頑張れることがあると思いますが、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

青森県の最大の課題の一つは産業・雇用です。働く場を青森県にもっと作りたい。働く場があつてこそ、若い人たちもここで頑張ってくれる。しかし、世界にチャンレンジすることも忘れてはいけない。そういう思いがあります。私が知事になってから、昨年度まで青森県で230社の企業誘致や増設をしてきました。また、県内の起業や創業の仕組みにも取り組んできました。何よりも、君たちが青森で働ける場所を作ろうという気持ちで進めてきました。

青森県の技術系の高校は、県内外の企業からものすごく高い評価をいただいています。技術者の卵として、気真面目にコツコツと、絶対に一つの物事を覚える。一つの技術を覚えたら、それを次の技術に転用していく。そのような創意工夫が一番するのが青森県の生徒だと褒められました。すごく嬉しかったです。また、自衛隊の方からも、3年以内に潜水艦のメンテナンスができるようになる、電子機器が入っている飛行機の細かいシステムを勉強会を開いてしっかりと自分たちで覚える、青森県の生徒はすごいですねと言われます。日本中、世界中のどこに出しても恥ずかしくないと言われます。知事として、本当に嬉しいことです。でも、私としてはやはり君たちには青森に残ってほしいので、これからも雇用対策を一所懸命取り組んでいきたいと思っています。

今年も6月に県庁の職員が県内の企業を1,000社くらい訪問して、青森の子どもたちを採用してくださいという活動をしてきました。求人倍率と言って、県内に就職したいと思う人が1,000人いた時に、東日本大震災のあった昨年でも1.11倍、つまり1,110人分の仕事がある状況にありました。このように、青森県の企業の社長も頑張ってくれています。ただ、いろいろなミスマッチがあつて、都市部に希望が集中したり、事務系を希望してもパソコンが使えなかったり、電話の対応ができなかったりして、生徒の皆さんにも頑張ってもらわないといけない部分もあります。技術系の場合は、さっき私が言った電圧と周波数の話も分かってくれていますし、基礎学習を積んでくれているので、就職については、求人倍率が全てではないですが、選り好みしなければ就職できる環境にあると思いますし、技術系の生徒が就職しやすい企業をたくさん誘致してきています。コールセンターも青森にどんどん来てくれていて、そこへの就職ができるような環境も準備しています。

一番厳しいのは、日本のものづくり産業が、中国やベトナム、インドネシアなど、どんどん外に出ていったため、首都圏を中心に仕事が減ってきているという現状があります。このため、大都市に行きたいという人たちの就職の状況が厳しくなっています。私は、

日本を支えるのはものづくり産業であると言い続けています。テレビや冷蔵庫、自動車を作るといったことだけではなく、食品加工技術やりんごの生産そのものも、世界最高水準のものづくりです。日本で作ったものを海外に出して、海外から稼いでこないと食べていけない日本で、そのような日本のものづくり産業が今ものすごく落ち込んできていることを悲しく思います。

でも、青森県にいる君たちが、ものづくりの楽しさ、技術を高めていく楽しさ、エンジニアとして高まっていく楽しさや喜び、そのようなことを感じて仕事をしてきている。皆さんのように日本のために、世界のために、地球のために本気でものづくりを頑張ってくれる人たちのためにも、これからも雇用対策に取り組みたいと思っています。

私自身、四国や九州に企業誘致に行きますが、今企業が求めているのは、青森県として人をどれだけ揃えられるかということです。例えば技術系ではどのような人たちがいるかによって青森に来てくれます。あの東日本大震災があった時でも青森県には13社が来てくれました。来てくれたのは、そのような時期だからこそ進出したい、青森県では技術者を採用できるだろうということであって来てくれました。だから君たちもしっかり勉強して頑張ってください。

就職は決まりましたか。

発言者2

先月、県内の自動車会社に内定をいただきました。

知事

おめでとう。君たちが日本のどこに行っても、世界のどこに行っても、ここで学んだ技術をしっかりと活かして活躍してください。

発言者3（電気科3年 男子）

むつ工業高校では、昨年度むつ市からの要望により、電気自動車を製作しました。また部活動においてもボート部が高等学校総合体育大会の県大会において総合優勝したり、ロボット部は県大会で上位に入るなど、部活動でも活躍をしています。そこで知事はむつ工業に対して、どのようなイメージをお持ちですか。本校の生徒として、とても気になります。なぜなら、知事のイメージによって私たちの今後の勉学に取り組む姿勢が変わってくると思うので、その点も踏まえて、お答えしていただければと思います。



知事

むつ工業高校と言うと、やはりボートのイメージはすごく強いです。青森県内でボートの大会ができる場所が新田名部川だけというのものもあるかもしれませんが、地元の他校と競って頑張っているというイメージがあります。また、先ほどの学校紹介で昨年先輩の就職率が100%との話がありましたが、技術者として、しっかりと技術を習得した生徒が企業に就職しているというイメージがあります。

他に聞きたいことはありますか。

発言者3

知事は今日どうやってむつ工業高校に来ましたか。

知事

よく聞いてくれました。今日はハイブリッドカーに乗ってきました。むつ工業高校に来る前に、川内小学校で児童と90分1本勝負の授業をしてきました。すごく面白かったです。川内小学校の児童が自由研究で青森県が短命県になっている原因を調べてくれました。青森県は喫煙率が全国でナンバーワンだそうです。お酒も一番飲むそうです。それから塩分の摂取量は二番目に多いということでした。児童たちに青森県でもっと健康づくりのための大会を開いて、煙草やお酒や塩分摂取をどんどん止めさせるようにしてくださいと言われてきました。このように、朝の7時に青森市を出発して、午前中は川内小学校に行つて授業をし、その後むつ工業高校に来ました。

皆さんとの意見交換が終わったら、下北半島縦貫道路の工事現場を見に行き、その後で用地交渉をしている畜産の用地を見に行き、それから六ヶ所村にある県のセンターの職員を激励して、三沢空港に午後6時半頃に着いて、三沢から夜7時の飛行機に乗って東京に行くことになっています。そして明日は省庁と打合せをして、そこから大阪に行って仕事をして、さらにその後名古屋に行って皆のお父さんが作っている帆立や長芋、一球入魂かぼちゃ、りんごといった青森の産品をセールスして、やっとな青森に帰ってきます。このように、土日でも働く厳しい仕事をしています。

あなたはどのような仕事を目指していますか。

発言者3

まだ就職が決まっていないので、とりあえず就職することを第一に考えています。

知事

今年は募集の出足がいいです。まだこれからなので、頑張ってください。

発言者4（電子科3年 女子）

私は地元での就職を希望しています。今年の大雪で国道が通行止めになり、下北半島は孤立してしまいました。下北半島を通る国道は2本しかなく、またこのような事態になった時に対応できるのか不安です。下北半島縦貫道路は下北半島の流通を活性化するとともに、災害発生時の避難道路としても重要な役割を果たすと考えます。早期に開通させてほしいと思いますので、よろしくお願いします。

知事

いい質問ですね。今年の大雪で国道が通行止めになったときは、全国ニュースで放送されていましたし、あちらこちらからお叱りの電話もありました。平成15年に私が知事になった時に、下北半島縦貫道路の建設は、本当に進んでいませんでした。そこで、道路の南北から整備を進めることにしました。現在整備は着々と進んでいて、今年度有戸北バイパスまで開通します。そこから吹越バイパスまでは、用地交渉が9割方済んでいます。道路整備を進めると必ずといっていいほど埋蔵文化財が出てきますので、遺跡などを調査する必要があります。特に下北半島は、結構遺跡群が出てくるみたいです。また、用地交渉をする時、地権者がその土地からいなくなって、誰がどこにいるかも分からなくなってしまうこともあり、すごく苦労しています。そうすると、工事を進めたくても肝心なところで用地交渉がまだ解決していないため、先に進めなかったりすることもあります。ですので、南北両方から工事に着手して、できる場所からどんどん工事を進めて、部分的にも開通していこうと総力を挙げて取り組んでいます。今の日本の技術であれば、用地交渉がうまく決まれば、道路整備は順調に進めることができます。むつ南バイパスも約9割用地交渉が済んでいます。これらのバイパスが順次開通していくと、相当便利になります。下北半島縦貫道路は、もう一息なので、県としても頑張って整備しています。

あと、国道338号白糠バイパスについては、約1,600人いる明治時代からの共有地の地権者について、ドイツや南米にいる子孫などの相続者を皆で探して、何とか用地交渉をクリアし、トンネルを完成させることができました。このトンネルができたことで、泊バイパスが使いやすくなります。また、大畑の国道279号二枚橋バイパスもトンネルの調査が終わり、整備が進んでいます。



下北においては、医療分野、あるいは皆さんの通学などで道路環境が便利になることが一番大事なことだと思っています。でも待ってられないので、ドクターヘリの2機目を導入しました。皆さんの命を守るため、そして企業を誘致して頑張ってくれたり青森に残

って働いてくれている人たちのためにも、しっかりと道路を整備していきたいと考えています。また、下北地域では漁港・漁場の整備にも力を入れていますので、海の資源を活かしていけば、仕事として成り立っていけると思います。このように、下北の未来のために一所懸命道路整備を頑張りたいと思っています。

ここで、技術者の卵である諸君にお願いですが、凍りついた道路に水を流したり温熱器を入れる以外に、例えば真冬でも雪が溶けるアスファルトのようなものをぜひ作ってほしいです。

あなたは、卒業したらどんな仕事をするのですか。

発言者 4

介護関係の仕事です。

知事

今、介護分野の仕事はとても大事なので、頑張ってください。期待しています。

発言者 5（設備システム科 3 年 男子）

私は工業高校生として、普通高校では学ばない実習など工業に関する勉学に取り組んでいます。知事は八戸高校出身と伺いましたが、普通高校で学ばれて良かったと感じられたことは何でしょうか。また、高校時代の面白いエピソードをぜひ教えてください。よろしくお願いします。

知事

どこの高校でもそうだと思いますが、高校の時の同級生や友たちというのは、一生涯付き合っていくと感じています。地元の小学校や中学校、もちろん大学の友たちもありますが、高校の時の友たちがやっぱり生涯付き合っていく場合が多いのかなと思っています。私の高校の友たちが、青森県内に結構残ってくれていますが、私が知事になってからもいろいろな場面で、知事それは間違っているとか、その考え方はこうなんじゃないとかアドバイスをしてくれるし、同窓生って本当にいいもんだと思っています。

高校では囲碁将棋愛好会に入っていました。当時の八戸高校の囲碁将棋愛好会は、総当たり戦をして一番負けた人が会長になるという仕組みがあり、私はずっと会長をやらされていました。三年間堂々と会長を務めたことが一つの誇りかもしれないです。

あなたの高校での思い出は何ですか。

発言者 5

知事からたくさんお話をいただいたのが何よりの思い出です。

知事

どうもありがとうございます。卒業したらどんな仕事をするのですか。

発言者 5

日本原燃で分析の仕事をします。

知事

我々も皆さんの安全安心のためにしっかり取り組みますが、君も研修を受けながら青森の安全安心を守ってください。お仕事頑張ってください。青森に残って大事な仕事を決めてくれてありがとう。

◆知事から全校生徒へのインタビュー◆

代表者との意見交換後、知事が全校生徒への突撃インタビューを行いました。

知事

せっかくの機会ですので、ステージを降りて全校生徒の皆さんからインタビューをしたいと思います。私が行ったら、将来の夢を教えてください。

生徒 6

将来の夢は消防士になることです。

知事

消防士の訓練は大変ですが、頑張ってください。

生徒 7

知事に会えて胸が一杯です。東京の、はとバスから内定をいただきました。バスガイドをやるので、ぜひ乗りに来てください。

知事

修学旅行の生徒を大勢連れて、あなたがガイドするバスに乗りに行きます。

生徒 8

将来の夢は大好きな人と結婚して、幸せな家庭を作ることです。仕事は大間町への内定が決まりました。

知事

おめでとう。青森県のために一緒に頑張ろう。

生徒 9

東北電力に就職したいです。

生徒 10

どこでもいいので、稼ぎたいです。



知事

皆さんはすごく明るくて、素晴らしいです。これからの活躍を期待しています。

◆知事所感◆

知事

今日は本当にありがとうございました。君たちの明るさが、君たちが毎日勉強している基礎的な技術の積み重ね、努力の積み重ね、それが私たちの未来を救う、そういう気持ちになりました。今日むつ工業高校の生徒の皆さんが、こんなに生き活きと高校生活を送り、それぞれ将来の仕事に向けてしっかりと技術を身につける努力をし、未来にチャレンジしていきたいと思ってくれている。そのことを含めて、青森の未来、日本の未来はまだまだいけると感じました。

そして、こんなに元気な生徒を育ててくれている校長先生をはじめとする学校のスタッフの皆さん、これだけ生徒の気持ち伸びやかで明るいのは、すごく大事なことだと思います。そのことを何よりも嬉しく感じました。

高校生の時は、いろいろな意味で、人生の中ですごく大事な時期です。その大事な時期を、ここむつ工業高校で送ることのできる皆さんの幸せ、皆さんにはそのことを感じてほしいと思います。いい先輩がいて、その跡をしっかり継いでくれるいい後輩がいる。未来に向かって躍進して行ってほしいと思います。これからの故郷の未来を、そして日本や世界の未来を、一人ひとりに託したいと思います。私自身、今日はたくさんの元気をいただきましたし、これからも皆さんを応援したいと思います。本当に皆さんの元気に感謝します。ありがとう。



◆知事への記念品贈呈、応援団長エール◆

意見交換終了後、生徒から知事へむつ工業高校で製作した「むつ香」「風鈴」の贈呈と応援団長からのエール交換が行われました。

